

くるま旅

Kuruma Tabi

FREE
MAGAZINE
2016

VOL. 012

一般社団法人
日本RV協会発行 JRV A

感動体験!! | ペット | 家族 | 趣味 | ハッピーライフ |

160人のコアユーザーの キャンピングカーライフ



ペットを“家族”にしてくれた 「くるま旅」



「キャンピングカーを買って一番良かったことは何ですか？」
それを、約160人のキャンピングカーユーザーに聞いてみた。
もちろん、答は個々のユーザーによって異なる。しかし、共通していえることは、それまでの人生では経験できなかったような、
新しいライフスタイルを手に入れたことへの驚きが、その回答に反映されていた。
今回の「くるま旅」ではこの調査をベースに、キャンピングカーユーザーのさまざまな感動体験を1冊にまとめた。

「キャンピングカーを買って一番良かったこと」調査概要

昨年の11月～12月にかけて、JRVAのホームページを通じて、キャンピングカーユーザーを対象に行った記述式アンケート調査。各ユーザーが、これまでのキャンピングカーライフを通じて一番良かったと感じたものを旅行体験、家族関係、趣味、ペットなどのテーマを選んで書き込んでもらったもの。期間中に158回答を集計。

犬連れ旅行を可能にしたキャンピングカー

「キャンピングカーを買って一番良かったこと」を尋ねた調査で、その筆頭に上がってきたのは、ペットネタである。

たとえば、アンケートに答えた30代のバンコンユーザーの男性は、キャンピングカーとペットとの相性の良さを次のように語っている

「キャンピングカーを買ったことで、一番悩んでいた愛犬の宿探しの苦勞がなくなり、犬と一緒に自由に旅行できるようになった」

同じく、調査に協力してくれた50代のバンコンユーザーはこういう。

「ペットと一緒に行動することで、旅行中にペットを留守番させる気遣いがなくなり、旅行自体が楽しくなった」

また、60代のキャブコンユーザーの男性の意見は次の通り。
「家内と旅行をするときは、いつもペットを預かる人を探していたが、キャンピングカーを買ってから、その心配が解消された」

次の意見は、50代のキャブコンユーザーの女性の感想。

「ペットOKの宿は宿泊料金が非常に高く、年に数回しか泊まることができなかったが、キャンピングカーを使うようになってからは月に一回は旅に出られるようになった」

キャンピングカーが、なぜペット同伴旅行に適しているのか？

その理由のひとつとして、キャンピングカーが搭載している装備類がペット連れ旅行に適していることが挙げられる。

50代の男性バンコンユーザー、それをこのように表現する。
「犬をドッグランなどで遊ばせた後は、室内シャワーで犬の足を洗ってあげる。また車内のドライヤーを使って、犬の体を乾かすこともできるので、いつでも清潔な旅ができる」



ペットペンションは なかなか予約が取れない。 そこでキャンピングカーの購入を決意

4年前にキャブコンを買われた田濃孝司さん(66歳)・千鶴子さんご夫妻も、キャンピングカーの購入動機はペットだった。

「最初はペットを乗用車に乗せて、ペットペンションのようなところで泊っていたんですが、そういう宿はなかなか予約が取れないんですよ。そんなときに、テレビで軽キャンピングカーの特集をやっているのを見たんです。そこに登場していたオーナーが犬を連れて旅行をしているのを見て、キャンピングカーを買う決意をしました」

そう語る田濃さん。

食事やお風呂などに行くときには、ペットを車内に残していくことになるが、キャンピングカーは断熱性がいいので、外気温をそんなに気にすることもないという。

※条件により差がありますので、場合によってはエアコンを使用するなどして、ペットの状態にはご注意ください。




田濃さん
ご夫妻




仁藤さん
ご夫妻



ペットのために、 エアコンが使えるキャンプ場泊が主体

キャンピングカーユーザーはキャンプ場で泊るよりも、道の駅や高速道路のSA・PAで泊っていると思われるがちである。しかし、5.8mサイズのキャブコンに乗っている仁藤明彦さん・洋子さんのご夫妻はキャンプ場派。

「ペットのために、やはり車内でエアコンが使える環境で泊りたいんですよね。そうするとAC電源が取りやすいキャンプ場泊となります」

とご主人の仁藤明彦さんは語る。

「また、休憩するところも、なるべくドッグランなどがある道の駅などを選んでいきます」とも。

けっきょく、犬が楽しいことは人間にとって楽しいこと。だから仁藤さんのキャンピングカー旅行は、常にペットが快適な旅をできるようなスケジュールになっているとのこと。

このように、ペットを中心にキャンピングカーライフを組んでいるユーザーの例は実に多い。

犬たちのために手作りステップも用意

キャブコンを購入してようやく1年目となる竹内誠さん(55歳)と知子さんご夫妻。一緒に旅するのはペアちゃんとピッケちゃんという2匹のワンちゃん。室内もあらかじめペット仕様になっていて、ダイネットは常にハーフベッド状態。

つまり、半分フラットになったベッド部分が犬たちのくつろぐエリアになっている。さらに、ペットたちがフロアからベッドに楽に乗れるように、奥様が手作りしたステップまで用意されている。




竹内さん
ご夫妻

行き先を決めずに、 ワンコといっしょにぶらり旅




富澤さん
ご夫妻

キャンピングカーを買うまで、犬と一緒に旅行するときはペットホテルを利用していたという富澤英夫さん・あゆみさんご夫妻。

「しかし、ペットホテルは料金が高いし、犬には快適であっても人間には快適でないところもあるんです(笑)」と富澤さんはいう。

そこでNV200ベースのキャンピングカーを購入。ペットホテルに予約を取る必要がなくなったので、行き先を決めずにフラッと旅に出られるようになったという。

感動体験!!

160人のコアユーザーの
キャンピングカーライフ

【CHAPTER 2 : FAMILY】



キャンピングカーで 仲良し家族誕生



「キャンピングカーを買って一番良かったこと」というアンケート調査では、

「家族の絆が深まった」と答える人が非常に多かった。

この場合の「家族」とは、子供を交えたファミリーを指す場合もあれば、

「夫婦2人」のことをいう場合もある。

たとえば、軽キャンピングカーに乗る40代の男性ユーザーは次のように語る。

「キャンピングカーのメリットは、子供とゆっくりと色々な話ができること」

また、キャブコンに乗る60代の男性ユーザーは、こう言う。

「キャンピングカーがなければ、家族がそろって旅行したりすることはほとんどなかった。

しかし、キャンピングカーが1台あると、家族そろって出かけることで、生活が楽しくなった」

このように、キャンピングカーが家族のコミュニケーションを活発にさせる機能を発揮するという報告は増加している。



17歳の息子さんも交えた 家族水入らずのキャンピングカー旅行

昨年はじめてキャンピングカー(キャブコン)を購入した奥山洋行さん(44歳)ファミリーは、現在17歳の息子さんを交えた3人家族で充実したキャンピングカーライフを送っている。

一般的に、17歳ぐらいの年齢になると、親と一緒に旅行しない子供の方が増える。しかし、奥山さん一家の場合は、ごく自然にご長男を交えた家族水入らずのキャンピングカー旅行を楽しんでいる。

「息子は小さい頃から親と一緒にテントキャンプを楽しんでいたから、親とアウトドアを体験することには抵抗がないんじゃないのかな」と、お父様の洋行さんは話す。

仕事柄、洋行さんは日頃はほとんど家に帰らないことが多い。

「だから、たまにオヤジと一緒にいると、息子は“可愛そうだから旅行ぐらい付きあってやるか”という気持ちになるんじゃないでしょうか(笑)」とも。

洋行さんは地方での仕事が多いため、これまでも日本全国を回ってきた。しかし、キャンピングカーを買ってからは、地方の町を眺めるときの意識が変わったという。

「常にキャンピングカーで車中泊することを念頭に置きながら景色を眺めるようになったんですよ。環境のいい場所を見つけたら、“今度ここに家族を連れてきてあげよう”とかね(笑)」

キャンピングカーには、今まで見過ごしていたような何気ない風景を、「家族旅行の視点」で素敵な風景に見つめ直す力が備わっているかもしれない、と奥山さんは語る。



奥山さん
ファミリー

キャンピングカーで夫婦の会話が復活 ~2人のコミュニケーションが深まる

キャンピングカー旅行は、子育てを終えたシニア夫婦にも普及している。そういうときのキャンピングカーは、夫婦のコミュニケーションを深めるために一役かっている。

夫婦の仲睦まじい旅の夜の1コマを、アンケートに答えた50代のキャンピングトレーラーオーナーの男性は、こう表現する。

「夫婦2人で目的地近くまで行き、夜は道の駅などで、12Vの灯りを頼りに、夫婦で語り合い、呑みあう。翌日はお目当てのキャンプ場にトレーラーを置き、ヘッド車で遊びに出掛け、湖、滝、森、花などを鑑賞。キャンプ場に帰

ってからは車内で食事を済ませ、きれいな星などを眺めながら、またゆっくりと過ごす」

バンコンユーザーのある60代の男性は、次のように語る。

「それまで単身赴任であったが、定年でリタイヤし、ようやく妻とキャンピングカー旅行ができるようになって、意思の疎通が図れるようになった」

また、50代の男性キャブコンオーナーは、こう答える。

「夫婦も歳を取ってくると、家においても会話が少なくなるが、キャンピングカーで旅していると会話ははずむ」

孫を交えた3世代キャンピングカー旅行が増える

最近、キャンピングカー旅行で目立ってきたのは、祖父・祖母、親、孫といった家族構成による“3世代旅行”だ。

アンケート調査でも、孫とキャンピングカー旅行を楽しむ報告が目立つようになってきた。

たとえば、「キャンピングカーを買ってからは、娘婿も巻き込んで、かわいい孫娘と楽しいキャンピングカー旅行を味わっている」(60代男性・キャブコンユーザー)

あるいは、「孫たちと同じ目的をもって、同じ時間を共有する機会を得たことで、改めて夫婦関係を楽しむことができるようになった」(50代男性・キャブコンユーザー)。

さらには、「これまで自分はアウトドア派ではなかったが、キャンピングカーのおかげで、孫と共にキャンプ場に行ったり車中泊しながら旅行に行くようになった」(60代男性・バスコンユーザー)



下西さん
ファミリー

6人の孫とキャンプ場で楽しむ

10年ほど前のグランドハイエースのキャブコンを手に入れた下西一二三さん・登美子夫妻は、そういう3世代旅行を楽しんでられる方の一人だ。

下西さんは二人の娘さんを持たれ、その娘さんにそれぞれ3人ずつのお子さんがいっぱい。孫の数は6人。孫全員を1台のキャブコンに収容し、キャンプ場などに出向いて、アウトドアライフを楽しませているという。

また、2人の娘さんの家にはそれぞれワゴン車があるため、それぞれの家庭のスケジュールさえ合えば、3家族合同キャンプなどを開くことも可能。6人のお孫さんたちも、今ではすっかりキャンピングカーになじんで、旅を楽しむようになっている。

感動体験!!

160人のコアユーザーのキャンピングカーライフ

【CHAPTER 3 : HOBBY】



キャンピングカーがあれば、 釣り、自転車などの**趣味**が 異次元に突入

「自分の趣味を生かすための道具としてキャンピングカーを使う」

これも、昔からキャンピングカーの楽しみ方としてずっと定着してきたパターンである。

なにしろ、キャンピングカーというのは、自分の“家”をそのまま戸外に持ち出すようなもの。

釣り、野鳥観察、星座観察、登山の前線基地などアウトドアライフを満喫するような使い方にはもってこいのツールになる。

では、キャンピングカーユーザーは、どのような趣味を満たすために、どういう使い方をしているのか。

アンケートに寄せられた回答をピックアップしながら、キャンピングカーを「趣味」という観点から見つめ直してみる。





キャンピングカーは趣味を追求する“ベースキャンプ地”

キャンピングカーは趣味を実現させる道具、として語る人たちの特徴が一つある。それは「ベース」という言葉で、自分のキャンピングカーを語ることである。

「趣味の鮎釣りを楽しむためのベース基地としてキャンピングカーを使用。車中で火気の使用ができる構造になっているので、大変助かる」(60代男性・バンコンユーザー)。

「自分の行きたい場所にキャンピングトレーラーを止め、そこをベース基地として山歩き、温泉めぐりなどを楽しんでいる。キャンピングトレーラーの良いところは、キャンプ場などにトレーラーを停めたあと、ヘッドだけで

自由に動き回れることだ」(30代男性・キャンピングトレーラーユーザー)。

「主に、登山のときのベースに使用。普通の観光地をめぐるときは、趣味の寺社仏閣めぐりの起点として活用」(50代男性・キャンピングトレーラーユーザー)

さらに、もうひとつ例を見てみよう。

「釣り、キャンプなど旅好きの人間にとっては、キャンピングカーは行動範囲を広げるもってこいの移動基地。仕事が忙しくて出かけられなくても、駐車場のキャンカーを見てイメージトレーニングを楽しんでいる」(50代男性・キャブコンユーザー)

釣りの楽しみ方をガラッと変えたキャンピングカー



このように、趣味を持つ人の多くが、自分のキャンピングカーを「ベース基地」として使っていることが調査から伝わってくる。

では、実際には、どのような趣味が多いのだろうか。

「釣りに行っても、キャンピングカーなら車内でゆっくり寝られる」(50代男性・バンコンユーザー)

「趣味の釣りをするために、今までは軽自動車で車中泊をしていたが、冬は防寒着を着たまま寝袋にくるまっても、寒くて目が覚めることが多かつ

た。だからキャンピングカーを買ってほんとうに良かったと思う」(50代男性・キャブコンユーザー)

「釣りをしながら温泉に入るのが我が家の旅のスタイル。そのため、1BOXカーの時代は、トイレが近くにある場所に車を止めることが条件だった。しかし、キャブコンを購入してからは、場所を選ばず釣りができるようになった。車内にトイレがあっても臭いや後処理はまったく問題がない。トイレは我が家になくてもならない装備品」(60代男性・キャブコンユーザー)

登山・ハイキングのための前線基地

このように、「釣り」を趣味としている人が回答者の中では最も多く、18種類ピックアップされた趣味のなかではトップだった。

2番目に多かったのは、「登山・山歩き」だった。

「キャンピングカーを使って前日に登山口近くまで行って、その晩は車中泊。翌日の早朝から登山を開始し、午後はゆっくりと温泉に浸かってから昼食を楽しむ。キャンピングカーなしでは体験できない旅のスタイルだと思っている」(50代男性・バンコンユーザー)

「山歩きや高山植物を見たりする自然観察が自分の趣味。そのためキャンピングカーで夜に寝、現地近くの車内で睡眠。現地では朝一から行動する。時間を気にせず、宿の心配がないのでとても楽。天気次第で出発や中止

が前日に決められるのもキャンピングカーのメリット」(60代男性・キャブコンユーザー)。

それ以外のアウトドア派のレポートには、こういうものもあった。

「キャンピングカーは野生動物を観察するのに使っている。食事・トイレ・仮眠がすべて車内でできるので、自然のなかに長くいても困ることがない」(40代男性・バンコンユーザー)



自動車レース参戦時に威力を発揮



このほかカヌー、自転車などの趣味を挙げた人もあり、キャンピングカーはさまざまな趣味に利用できることが実証された形となった。

変わったところでは、レースの前線基地として使うという例も。

「趣味で自動車レースに参戦している。これまでは、レース前日にサーキ

ット近郊の宿を取っていたが、そういうところはなかなか予約が取りにくく、30~40km離れたビジネスホテルに宿泊することもあった。しかし、車をキャンピングカーに変えてからは、レース場近くで車中泊をすることができるようになり、心身ともに負担が減った」(40代男性・バンコンユーザー)

自然のなかで好きな音楽を聞きながら、酒を飲む



そのほか、キャンピングカーは、次のような趣味を楽しんでいる人たちも満足させている。

「大好きな広島カープの遠征に同行するときの基地」(50代男性・キャブコンユーザー)

「(自分の家では大音量で音楽が聞けないので)、キャンピングカーで自然

のなかに行き、そこで音楽を聞きながら、酒を飲む」(60代男性・キャンピングトレーラーユーザー)

「趣味のスキーを楽しむのに格好のアイテム。スキー場の宿を取る手間が省けるようになった。またキャンプ場でキャンプするときも、テントの設営・撤収に比べて、寝泊まりが楽になった」(40代男性・キャブコンユーザー)

キャンピングカーで**時間**に 拘束されない**ハッピー**ライフ

フレキシビリティに富んだ旅行計画が簡単に実現

キャンピングカー旅行の最大の特徴は何か？

それに対する回答として、多くのユーザーが挙げたのは、「フレキシビリティ(柔軟性)」に富んだ旅が可能になるというものであった。

その代表的なものとして、次のような報告を挙げてもらおう。

「いつでも、旅に出たいと思ったときに出発できる。宿泊施設の予約も必要ないので自由な旅ができる」(60代男性・バンコンユーザー)。

「キャンピングカーによって、宿の予約する必要がなくなり、天候によって予定を柔軟に変えられるようになった。ペットを気軽に連れて行けるの

で、旅行の回数も増え、前よりもかなり行動範囲が広がった」(50代男性・キャブコンユーザー)。

「キャンピングカー旅行は臨機応変に対応できることが特徴。たとえば海に行く計画を立てていたが、当日雨の予報が出たので、目的地を急遽山に変えることも可能。山に紅葉を見に行く計画を立てていたが、今年は紅葉が終わるのが早かったなどというニュースが流れれば、目的地をすぐに温泉に切り替えることも簡単」(50代男性・キャブコンユーザー)。

不意に休みが実現したら、**移動しながら旅の計画**を立てる

旅行を楽しむものにするかどうかは、当日の天候にかかっている場合も多い。

あらかじめ日程が定まっており、しかも宿泊場所の予約が決まっている場合は雨でも雪でも、とにかく悪天候でも現地に向かうか、あるいはドタキャンするしかない。

しかし、宿の予約などを必要としないキャンピングカーは、かなり臨機応変な旅を可能にしてくれる。

そのような例のひとつが、次のようなもの。

「7年間、毎年夏に3～4週間キャンピングカーで北海道旅行をしているが、とにかく宿の心配をしなくても良いのが一番。また、天気予報を見なが

ら行き先を決めたり、計画変更ができるのがキャンピングカーの良いところ」(60代男性・キャブコンユーザー)。

「キャンピングカー旅行は、天候によって予定を柔軟に変えられる。宿の予約を必要とする旅はこういう気楽さがない」(50代男性・キャブコンユーザー)。

「自分は自営業者のため、長期連休や計画的な休暇を取りにくい。しかも、ベットもいるので宿の予約も取れないことが多い。しかし、キャンピングカーのおかげで、休みが突然実現したときは、日程に合う目的地を急遽探し、走り出してから旅の計画を立て、とりあえず道の駅やRVパークで宿泊して、旅の体裁を整える。ほんとうにキャンピングカーを購入して良かった」(50代男性・キャブコンユーザー)。





感動体験!! 160人のコアユーザーの キャンピングカーライフ 【CHAPTER 4 : HAPPY LIFE】

時間に制約されない旅は、高齢者にも優しい

「時間に制約されない」、「チェックインなどの時間に縛られない」、「スケジュールに拘束されない」などという言葉が並ぶキャンピングカー旅行。そのような特徴は、また高齢者や身体障害者の生活ペースに合わせた旅行を可能にすることも意味する。

ある60代男性のキャブコンユーザーは、こう語る。

「高齢の父母というんなところへ旅行できたことがキャンピングカーのメリットだった。こういう旅は、公共交通機関や旅館を利用する旅ではとても無理。両親の体調を見ながら臨機応変に予定が変えることのできたキャンピングカー旅行だからこそ、楽しい思い出ができた」

このように、予定に縛られない旅行を可能にしたキャンピングカーは、地方の気に入った場所を見つけたときは長期滞在をすることもできるため、現地の人々との思わぬ楽しい交流を実現することもある。

70代でキャンピングカー旅行を楽しむ男性は、こういう。

「よその土地へ行って、スーパーや産直市場などで地元特有の食材を購入することが楽しみ。そして、レジの人や買い物をしている地元の人に、その食材の料理方法を尋ねることが楽しい。そのときに“うちでは、こうやって食べているよ”などという情報を得たときが最高。キャンピングカーは、地元の人たちの会話とその地方特有の食材を楽しませてくれる」

人と人との交流を促すキャンピングカー

また、人との交流を楽しみ思い出としてレポートしてくるユーザーもけっこう多く、それらは、キャンピングカーが人間同士の思わぬコミュニケーションツールとなっていることを物語っている。

50代のバスコンユーザーの男性は、次のようなレポートを寄せてきた。

「キャンピングカーを通じて、同じ趣味を持った多くの友人と知り合えたこと。またその中で、一生お付き合いできる友人と知り合えたことは、人生で大きな宝物となった」

このように、キャンピングカーを持つことによって、家族以外の友だちを得られたことが「一番良かったこと」に挙げた人の数は、アンケート回答者のうち5人。それぞれ「仲間が増えた」、「友だちが増えた」、「知り合いが増えた」などという表現でレポートしてきている。



Photo by iwata kazunari

アンケートのテーマ選びによって見えてくるユーザーの立場や心理状態

今回の調査では、さまざまなテーマに対して多彩な意見・感想が寄せられた。

そして、テーマごとに、ユーザーの年齢や乗っている車種などの特徴が現われていることも分かった。

まず、ペットについての意見を送ってくれた人たちは、年齢的には50代が中心で、その数22人。

(以下40代12人/60代8人/30代3人と続いた)。

この人たちが乗っている車種としては、キャブコンが圧倒的に多かった

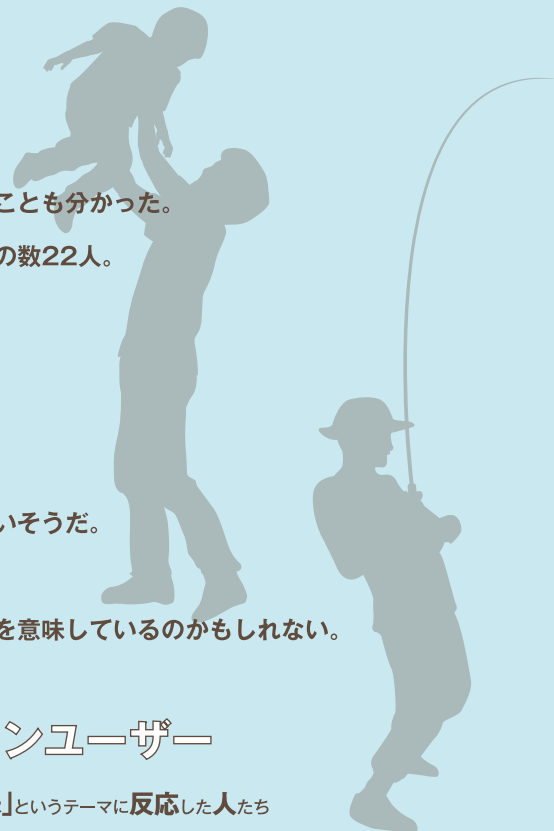
(キャブコン27人/バンコン13人/バスコン2人/軽キャン1人)。

これは、50代という世代になると子育てが終わっている人が多く、

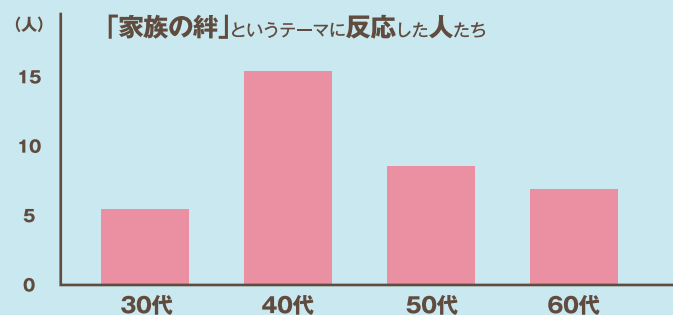
子供の代わりにペットを連れて旅行を始めた年齢の人が中心となることを意味していそうだ。

また、ペットを同伴する車の居住性を考えると、

バンコンより多少室内が広いキャブコンが適していると判断した人が多かったことを意味しているのかもしれない。



「家族の絆」に関心を示したのは40代のキャブコンユーザー



「家族の絆」というテーマに反応した人たちは、年齢的に40代が目立った(40代...15人/50代...8人/60代...6人/30代...5人)。

乗っている車種ではキャブコンが多かった(キャブコン...14人/バンコン...7人/バスコン...5人/軽キャン...3人)。

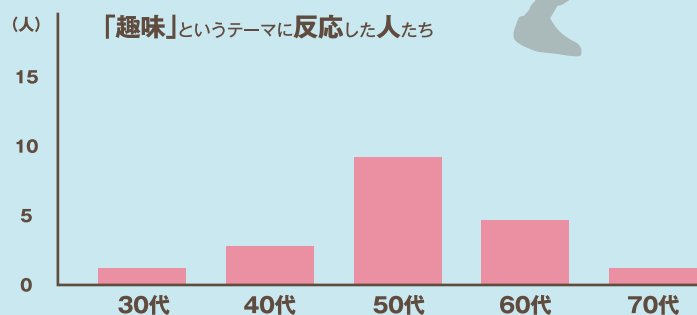
以上のことから、「家族の絆」というテーマに関しては、40代くらいの子育て中の人々が興味を持って真剣に取り組んでいる状況が伝わってきた。

「趣味」をテーマにしたアンケート調査で得られたユーザーの特徴は次のとおり。

年齢でいうと、50代がトップで9人(以下60代...5人/40代...3人/30代...1人/70代...1人)。

車種別では、バンコンがトップで9台(キャブコン...6台、キャンピングトレーラー...4台)となった。

やはり、関心領域を「自分たちの家族」から「自分だけの趣味」にシフトす



るというのは、子育てもある程度終わる50代という年齢に達している必要があるということなのだろう。

また趣味のなかには、それに用いる車の機動力を考慮しなければならないものもあるため、キャブコンよりはバンコンという判断になったのかもしれない。

ちなみに、趣味の種類では釣りがトップで5人(登山・山歩き...4/スキー...2/温泉...2/高山植物観賞...1/野生動物鑑賞...1/寺社仏閣めぐり...1/自動車レース...1/音楽...1)となった。

また、キャンピングカー旅行の「時間の制約がないこと」や「計画を立てる際の柔軟性」に注目した人たちは、50代と60代に集中した(40代...12人/60代...20人/50代...22人/70代...2人)。

車種でいうと、キャブコン...25人/バンコン...19人。以下トレーラー...3人/バスコン...3人/軽キャン...2名という順になった。

マナーと一緒に素敵なくま旅をお楽しみ下さい

キャンピングカーユーザーの増加に伴い、一部の心ないユーザーのマナー違反がニュースに取り上げられたり、道の駅からの締め出しといった事態も発生しています。同じマナー違反でもキャンピングカーユーザーがやっているというだけで端からは目立ってしまう場合もあります。みんなが快適で楽しいくま旅が出来るようキャンピングカーユーザーひとりひとりにマナーを心掛けて頂こうと日本RV協会では『公共駐車場でマナー厳守10カ条マナーハンドブック』を配布しています。10カ条は以下の通りです。

- ①長期滞在を行わない
 - ②キャンプ行為を行わない
 - ③電源から電気を盗まない
 - ④ゴミの不当投棄はしない
 - ⑤トイレ処理は控える
 - ⑥グレータンクの排水は行わない
 - ⑦発電機の使用には注意を払う
 - ⑧オフ会の待ち合わせは慎重に
 - ⑨車椅子マークの所に駐車しない
 - ⑩無駄なアイドリングをしない
- 詳しくはマナーハンドブック、または日本RV協会ホームページ(<http://www.jrva.com>)でご確認下さい。



安心・快適な 日本RV協会認定 車中泊施設



快適
宿泊



電源
完備



温泉
近接



地域
密着

「RVパーク」とは、一般社団法人「日本RV協会（JRVA）」が進めている車中泊専用施設のことで、
「安心・快適なキャンピングカー泊」を実現するものです。

近年キャンピングカーユーザーの休憩施設として人気の高い「道の駅」や、立ち寄り湯の敷地内、
あるいはホテル・旅館の駐車場の一角に、有料を条件にAC電源供給設備やゴミ処理システムなどを整えた
キャンピングカー専用エリアのことを意味し、現在は日本全国で61ヶ所の施設が稼働しています。（2016年1月31日現在）
このRVパークの大まかな特徴をいえば、

- ① ゆったりした駐車スペースを有すること
- ② 長期間の駐車が可能なこと
- ③ 近隣に入浴施設があるか、あるいはシャワー設備を備えること
- ④ ゴミの処理が可能なこと
- ⑤ トイレなどの設備を有すること
- ⑥ キャンピングカー等が使用できる電源コンセントが設置されていること
- ⑦ 入退場の時間制限がないか、制限がゆるやかであること

などといった項目が挙げられます。

使用料金は、だいたい1泊2,000円が目安になっていますが、施設によっては電源代やゴミ処理台が込みになる場合もありますし、
逆に基本料金を安くして、電源やゴミ処理は希望者だけに別料金として徴収するところもあります。

どの施設も、基本的に予約は必要ないということになっておりますが、

混み合うことが予想されるシーズンには電話予約を受け付けてくれるところもあります。

近年、道の駅やサービスエリア、民間の駐車場施設などで車中泊されている方々のルール違反やマナーなどが問題視されたりしていますが、

日本RV協会では、そのような問題の起こらない場所としてRVパークを整備し、

多くのキャンピングカーユーザーに、安心して快適に車中泊できる専用施設として利用していただきたく思っています。



■ RVパークに関するお問合せこちらまで

一般社団法人

日本RV協会

〒194-0022 東京都町田市森野1-10-10 ペアシティエンドビル2-A

☎ 042-720-7911 FAX.042-720-7251

E-mail : info@jrva.com

URL : <http://www.jrva.com>

JRVA